

石清水社・石清水井

石清水社は石清水八幡宮の摂社であり、本社に通じる男山の東斜面の小道にあります。どちらの神社も、石清水（「石からの清らかな水」）と呼ばれる、敷地内に湧き出る山の泉にちなんで名付けられました。この泉は、寒い冬や厳しい干ばつの際にも信頼できる水源として役立っていたため、男山とその周辺地域の住民は、この泉を神聖なものと考えていたと言われています。神社の伝承によれば、ここを訪れる天皇や将軍は、この泉から汲んだ霊水を石清水八幡宮の本殿の神々に献供するのを慣習としており、今でもこの水は献供に使われています。

現存する石清水社の建造物は 17 世紀初頭に建てられました。この神聖な泉を含む井戸には、波の絵や想像上の生き物の絵が色とりどりに描かれています。1636 年に寄進された石造りの鳥居は、今なお男山に立っている鳥居の中で最古のものです。石清水社の社殿、井戸、そして鳥居は、京都府指定文化財に指定されています。

石清水社に祀られている神様は、人々の最も大切な願いを叶えてくれると言われている、天之御中主です。